

## 1. 実況上の着目点

- ① 黄海には高気圧があつて南東へ移動。オホーツク海には2つの低気圧があつて共に東北東進。東～北日本は一時的な西高東低の気圧配置となっており、山地で雪の降っている所がある。西高東低の気圧配置や下層寒気の移流で風が強まり、全国的にやや強い風や強い風が吹いて波が高くしている所がある。
- ② 500hPa 5220～5580mで-30℃以下の寒気を伴う深いトラフが本州を通過中。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のオホーツク海の2つの低気圧は、一体化して次第に1項②のトラフ直下となり、8日夜にかけて発達しながらカムチャツカ半島付近へ進む。北日本では低気圧の影響で、南西諸島や西～東日本では1項①の高気圧の張り出しや下層寒気の南下の影響で、風が強くなり波が高くなる所がある。さらに北日本では、高気圧とオホーツク海付近の気圧の谷との間で気圧の傾きが大きい状態が続き、9日は、500hPa 5160m以下の寒冷渦に対応した低気圧が、沿海州からオホーツク海へ進む影響で風が更に強まる。北日本では9日にかけて、南西諸島と西～東日本では8日はじめは、強風や高波に注意。北海道地方では9日は強風に注意・警戒。
- ② 8日前半は、850hPa -6℃以下の寒気が北日本に流れ込む、北～東日本の山地を中心に雪の降る所がある。交通影響等に留意。
- ③ 500hPa 5640m付近のトラフに対応して、9日朝までに前線上の華北に低気圧が発生する。低気圧は10日にかけて黄海から日本海を東北東進し、温暖前線が9日日中から10日夜にかけて西～北日本を進む。前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。西日本では9日～10日は、東～北日本では10日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。低気圧や前線の周辺では強い風が吹いて波が高くなりしける所がある。西日本では9日～10日は、東～北日本では10日は、強風や高波に注意。九州北部地方では9日～10日は強風に注意・警戒。
- ④ 北～東日本の850hPaの気温は、8日は平年よりも低い寒気が流れ込むが一時的で、9日は平年差+5℃以上、日本海を低気圧が進む10日は平年差+10℃以上となり、暖気が流れ込む。北～東日本の多雪地では10日にかけて、なだれや融雪に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

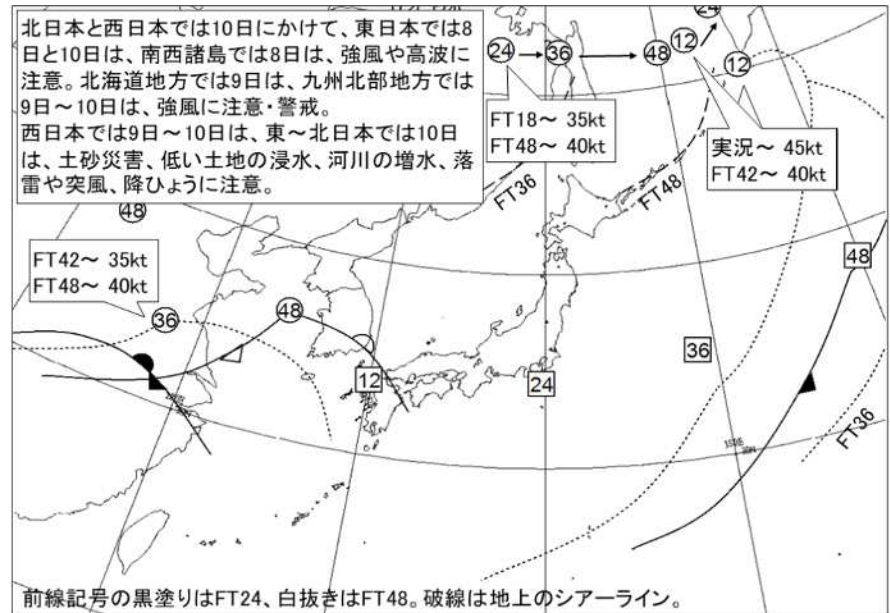
総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：北海道・伊豆諸島・九州北部4、東北・北陸・沖縄3m。

## 5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図